

語り継ぐ2020の歴史をつくりましょう

戸口 まさる
勝が問う

井口亮一が問う

笠原規弘が問う

初めての避難です。大雨特別警報を聞いて

「生きてこそ…」命が最優先であるべきです

東京2020に向けた戦略は

答弁 機運醸成・魅力

発信します



和紙体験で、外国人観光客の誘客につなげよう。



ラグビーワールドカップ2019。おもてなしエリアに出店しました。(連携事業)

A Q 学校教育において、この貴重な期間をどのように活用するのか。
A Q 学校教育課長 子供たちに一生の財産として心に残るような機会を提供したいと考えており、オリンピック、パラリンピックの観戦について検討していくまです。

A Q 機運醸成を図るとともに、広い分野で有形・無形のレガシーの構築はあるか。
A Q 生涯学習課長 パラリンピック聖火リレーに係る採火式と、聖火を当町に持ち帰って大会を祝う聖火ビジットを、機運醸成と次世代に受け継ぐ内容にしたいと思います。

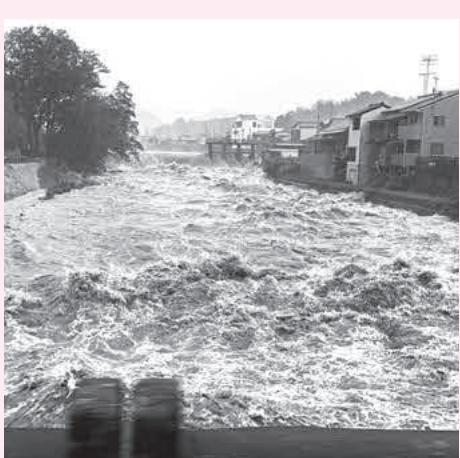
Q 開催に伴う外国人観光客の増加を、当町への観光及び経済効果に結びつける考えはあるか。
A Q にぎわい創出課長 開催1年前イベントが開催され、上尾会場及び入間会場に参加し、地酒や和紙、町内各種イベントや地域のPRを行うとともに、和紙の染め体験を行いました。今後も各種イベントに積極的にかかわり、インバウンドの誘客を進めたいと考えています。

Q 27カ所の指定緊急避難場所を利用した町民の声は、どのようなものであったか。
A Q 防災地域支援課長 「避難場所への表示がなく、開設しているのかよくわからないなかつた」「職員の数が足らないのではないか」「職員に親切にしていただいた」など、さまざまな意見がありました。

Q 避難場所で対応に当たった職員の苦労は、どのようなことだったか。

Q がありません

Q 消防団がその役割を担っています



みんな自分だけは災害に遭わないと思ってる(私)。(10月12日14時相生橋より撮影)

A Q カメラつき電子機器の普及により、多くの方が当町観測史上最強レベルの台風を撮影したのではないか。町民に提供してもらい、「記憶から消えぬよう記録に残す」資料の作成を望むが。
A Q 重な情報になると認識しています。ご提言と受けとめ、今後の防災対策に上げる方策を考えていきます。

A Q 河川の増水を見に行き、被害に遭う方が絶えない。河川にカメラを設置し、リアルタイム発信を検討できないか。

A Q 防災地域支援課長 災害の未然防止につなげるよう、槻川など県管理の河川への設置について、県に要望していくます。

Q 激甚化する風水害に水防団の設置を

里山風景
心安らぐ小川町。
(S・Mさん・61歳)

古きと新しきが絶妙に
混ざり合う豊かなまち。
(A・Kさん・30代)

人がやさしく伝統息づく
和紙の里小川町。
(S・Nさん・66歳)

Mini Column
オガワマチのこと
ギカイのこと
一緒に見よう、考え方
「あなたが考える町のキャッチコピーは」